

新造VLGCにスクラバー搭載

■ ジクシス、SO_x規制に対応

LPG元売り会社ジクシスは23日、新造の大型LPG船(VLGC)へのSO_x(硫黄酸化物)スクラバー装備を決めたと発表した。既報(6月23日付)のとおり、クミアイ・ナビゲーションから定期用船する2019年就航予定のVLGCが対象で、2020年から強化されるSO_x排出規制に対応する。同社は新造船へのスクラバー搭載についてはその都度検討していく考え。

対象となる新造船は8万2200m³型で、全長約230m、幅37.2m、深さ21m。

川崎重工業の坂出工場で建造され、19年第1四半期の運航開始を予定する。ジクシスは規制適合によって環境負荷低減に努めるとともに、輸送力の強化を通じてLPGの安定供給に貢献していくとしている。

ジクシスのVLGC船隊は7隻(用船船主は、くみあい船舶2隻、クミアイ・ナビゲーション1隻、川崎汽船1隻、フェニックス・タンカーズ1隻、KSSライン1隻、国内船主1隻)。今年4月に韓国の子会社から定期用船する“Gas

Wisdom、5月にはクミアイ・ナビゲーションから定期用船する“Pyxis Alfa”の運航を開始した。このほか、新造発注残は川崎汽船から用船する1隻とクミアイ・ナビゲーションから用船する1隻。このうちクミアイから用船する新造船にスクラバーを搭載する。

ジクシスは15年4月にコスモエネルギーホールディングス、昭和シェル石油、住友商事、東燃ゼネラル石油(現JXTGエネルギー)の4社のLPG事業を統合して発足した。今年5月31日からコスモ、昭和シェル石油、住友商事が3分の1ずつ出資する体制に変更した。